

ガソリン携行缶を安全に取り扱うための注意事項

ガソリンは揮発性が非常に高く、蒸気は空気より重いため、低温環境下においてもガソリン携行缶の蓋を開けると可燃性蒸気が出て、静電気火花のような小さな火源でも火災になる可能性があります。

また、夏季にガソリン携行缶を直射日光の当たる場所に置くと携行缶内の液温の上昇とともに携行缶内圧も上昇します。その状態でガソリン携行缶の蓋等を開放するとガソリン内部に気泡が発生し、大量の可燃性蒸気が携行缶外に排出されます。

さらに発電機の排気口の近くにガソリン携行缶を置くと携行缶内の液温は一段と上昇し、その状態で蓋等を開放すると大量のガソリンが開口部から噴き出す危険性があります。

このようなことから、ガソリン携行缶を安全に取り扱うためには、次の事項に注意してください。

1 ガソリン携行缶は、直射日光の当たる場所や高温の場所に置かない

夏季はもちろん、それ以外の時期でも直射日光の当たる場所や高温の場所にガソリン携行缶を置くと、ガソリンの液体又は可燃性蒸気が大量に噴き出す可能性があるため、日陰の風通しの良い場所にガソリン携行缶を置いてください。

また、ガソリン携行缶の蓋やエア抜きを締め方が緩いとガソリン携行缶周辺に可燃性蒸気が出続けて危険なので、使用後は確実に締めてください。

2 ガソリン携行缶を取り扱う場合は、周囲の安全確認とエンジン停止を徹底する

ガソリン携行缶を取り扱う場合は周囲に火源になりそうなものがないことを確認するとともに、万が一、火災になっても延焼拡大や人的被害が生ずるおそれがないことを確認してください。特にガソリン携行缶を用いて発電機等にガソリンを注油する際には、ガソリン携行缶の蓋を開ける前に発電機等のエンジンを停止することが必要です。

3 ガソリン携行缶の蓋を開ける前に、エア抜きを行う

日陰の風通しの良い場所にガソリン携行缶を置いてあっても、外気温の上昇

に伴いガソリン携行缶内の圧力が高くなっている可能性があり、ガソリン携行缶の蓋の開放に伴い可燃性蒸気が噴き出す可能性があることから、ガソリン携行缶の蓋を開ける前に、少しずつエア抜きを行ってください。

また、エア抜きはガソリンをスムーズに注油するための空気取入れ口を確保する意味でも有効なので、エア抜きのあるガソリン携行缶にあっては注油前に必ずエア抜きを行うことが必要です。

ただし、直射日光や発電機の排気口等によりガソリン携行缶が暖められている場合は、ガソリン携行缶の蓋の開放のみならずエア抜きも厳禁です。直ちにガソリン携行缶を周囲に火気や人がいない日陰の風通しの良い場所に移動させ、ガソリン温度が常温程度（6時間程度）に下がるまで置いた後にゆっくりとエア抜きをすることが必要です。

なお、ガソリン携行缶内部が高温・高圧になっている場合は、ガソリン携行缶の外側が熱くなっていたり、ガソリン携行缶の蓋が固く開けにくくなっている場合があることにも注意してください。